

6. 文化と娯楽のための施設

は、毎年少しづつ増加しているが、これも私立大学の収容者数の増加によるもので、必ずしも公立学校の設備拡充によるものではない。

⑤ 幼稚園と各種学校

・ふえる幼稚園園児 幼児教育が大切なことが認識され、最近では幼稚園に通園する幼児が毎年多くなっている。その状況は図5-47で表わされているが、大体幼児4人に1人の割合で幼稚園に通園していることになる。なお、幼稚園はすべて私経営のもので公立のものは1カ所（定員50名）しかない。

・多い予備校生と和洋裁学校 また、特殊技能や趣味、教養を高めるために設けられた学校があり、毎年平均したのびを示している。昭和36年のこれら各種学校の在学者数は2万6千930名である。このなかで予備校の生徒数が一番多く7千162名で、このほかに語学課程2,470名のなかのほとんどが受験を目的とした生徒であろうから、約35%がこれら受験生で占めて受験地獄の一端をみせている。

つぎに多いのが和裁、洋裁、料理など花嫁修業の生徒が多く、7千466名で、次に職業、技能を修得するためのものが多く、自動車学校802名、工業641名、看護婦養成206名、となっている。また、横浜で特色があるのは、外国人学校で、2,524名の在学者がある。

横浜の文化施設といった場合、まず文句なしに目につくのは施設そのものの貧弱さはともかくとして、数的にみてもはなはだ少ないということである。

① 図書館と博物館

・貧弱な博物館 図書館、博物館などについても、表5-44が6大都市の比較をしたものであるが、神戸市とならんでその貧弱さはまぬがれない。数でこそ13カ所と6大都市のなかで一番多いが、これは民間の篤志家がつくった児童図書館が入っているからであり、市立図書館と県立図書館のほかは、規模も小さくどうのこうのというものではない。また博物館も数でこそ9カ所あるが、博物館法で博物館として登録されているものは、金沢文庫と先年完成された横浜海洋博物館の2カ所だけで、野毛山の動物園でさえ博物館に相当する施設として、文部大臣から指定されているだけである。

② その他文化施設

・市民の文化活動と施設の不足 けれども、施設のまずしさを博物館の数で東京や大阪、京都とくらべても意味がない。これらの都市は、それぞれ東西の文化

表5-44 図書館、博物館の6大都市比較（昭和37年）

区分 都市別	図書館			博物館						
	公立	私立	計	歴史	美術	科学	動物園	植物園	水族館	計
横浜市	3	15	18	5	—	3	1	—	1	10
東京都	54	5	54	20	16	13	3	4	1	57
大阪市	5	—	5	3	4	3	1	1	—	12
名古屋市	6	—	6	1	2	1	1	2	—	7
京都市	5	—	5	18	3	4	1	4	—	30
神戸市	2	—	2	—	2	2	1	4	1	10

資料：大都市比較統計年報

の中心地であって、それぞれ古い歴史をもっているものであり、すべて東京依存の強い、また都市としての歴史の浅い横浜とくらべることはできない。しかし横浜にも古書珍籍を集めて全国的に有名な金沢文庫や、重要建築物を日本式庭園に配置した三溪園などをはじめ国宝3、重要文化財55などの文化遺産をうけついでいる。

これら文化的遺産の貧しさは、やむをえないとしても、市民の文化的欲求をみたし、活動のための場所はいたって少ない。昭和29年に県立音楽堂が建設されるまでは横浜には本格的に音楽を聞ける施設がなかったといってもよい。その後青少年ホール、文化体育館が設けられているが、これらが市民の文化活動を充足していないことは、県立音楽堂の日程表が物語ってくれる。

横浜は「横浜交響楽団」やいろいろのコーラスグループあるいは演劇団体などをはじめ、美術、文学など

広い分野にわたり、市民の創造的的文化活動が活ばつに行なわれており、そのなかのいくつかは全国的にも有名なものである。このように芸術を觀賞するという受け身の活動から、積極的に文化をつくりだし、横浜の文化水準をたかめているにもかかわらず、施設不足によって足をひっぱられ、またこれが市民的な規模にまで広がっていくための妨げとなっている。とくに美術関係者から展示会場を含む美術館の建設が要望されており、また、今後これら文化、芸術活動のための施設はだんだん整えられていくだろう。しかし、これが中区中心、既成市街地中心にかたよらならないよう地域毎に計画性をもって、整備される必要がある。

●ほしい公会堂や体育施設 このような施設の不足は、体育施設や青少年活動のため施設、公会堂等においても同様である。表5-45は、市内各区の公会堂、青少年の家、市が経営している体育施設の状況を示したものである。公会堂は、ここ2~3年に急速に整備され、各区に大体1カ所設けられているが、金沢、戸塚の両区にはまだ設置されていない。その他体育施設もすべて公園の中に含まれているもので、それ自体としては問題はないが、文化体育館のように体育向上を

表5-45 文化体育活動施設の状況 (昭和37年)

区別	公会堂	青少年の家	スポーツ施設 (他施設に含まれたものも入る)						
			陸上競技	野球	プール	児童プール	テニス	体育館	運動広場
鶴見区	1	4	—	1	2	2	1	—	—
神奈川区	1	5	1	3	2	1	1	—	—
西区	2	4	—	—	1	—	—	—	—
中区	2	3	—	1	1	1	1	2	—
南区	1	5	—	—	1	2	—	—	1
保土ヶ谷区	1	5	1	—	1	1	1	—	—
磯子区	1	3	—	1	—	1	1	—	—
金沢区	—	2	—	—	—	—	—	—	1
港北区	1	6	—	—	—	—	1	—	—
戸塚区	—	5	—	—	1	1	—	—	—
計	9	44	2	6	9	9	6	2	2

表5-46 6大都市娯楽施設の状況 (昭和37年)

区分	映画館	
都市別	映画館	映画館以外の興行場
横浜市	77	5
東京都	501	703
大阪市	265	42
名古屋市	129	15
京都市	62	22
神戸市	68	18

資料：大都市比較統計年報

目的とする施設や気がるに利用できる卓球場、青少年のためのレクリエーション施設、あるいは散歩のための公園、緑地帯が市の中心部にかたよることなくもっとたくさんあってもよい。

③ 市民の娯楽施設

・娯楽施設は他都市なみ つぎに市民の娯楽施設はどうなっているだろうか。施設1店あたりの人口からみていくと、この面では文化施設が非常に見劣りしたのと対称的に、他都市と比較しても劣っているとは思えない。施設1店当りの人口割合でパチンコ、マージャンなどの遊技所の比較をしてみると、横浜は大阪、名古屋と同じく1店当り4,000人台で、京都、神戸が人口割では一番施設の数が多く、東京はほぼ中位で1店当り3,200人となっている。また、映画館も、東京大阪をのぞけば大体他都市なみの施設割合を示している。現在、映画館は、市内に77カ所あるが、毎年その数は、へっている。テレビの影響により毎年入場者がへっているとはいえ、それでも年間1人当り9.1回映画をみており、市民の娯楽のなかで大きな割合を占めているといえよう。(表5-46)

